

思いや考えを伝え合える児童を育成するための基礎学力向上の実践

【白岡町教育委員会】

- 1 学校、学年、教科 小学校、全学年、国語科
- 2 ねらい 業前の時間や朝の会・帰りの会の時間の活用、授業中での工夫を行ったり、家庭の協力を得たりすることで、児童に基礎的・基本的な学習内容を習得させるとともに、思いや考えを伝え合える力の育成をはかる。

3 取組の内容

①漢字指導

・漢字タイムの設定

日課表を検討し、週2回、国語の開始10分間を、漢字タイムとした。全校一斉に漢字の習熟を行う。内容については漢字スキルを中心に、学年ごとに話し合い、取り組んでいる。(図1)

・教材の選定と、練習方法の工夫

4月の教材選定の前に、基礎学力向上部で検討し、全学年が同じ教材に取り組むことにした。(あかねこ漢字スキル)

指導方法の中で、「指書き」「なぞり書き」「写し書き」を指導の基本とした。また、児童が書き順や「とめ」「はね」「はらい」に気をつけ、丁寧に書くよう指導することとした。(図2)教師が児童と向き合い、筆順を確認する「空書き」も、大事な指導技術の一つである。

なお、家庭学習にも漢字練習を位置づけ、児童の実

態に応じて、毎日、取り組むことを、学校全体で確認し、実行してきた。

・校内学力たしかめテストの実施

漢字タイムを中心に取り組んできた成果を、学期に1回、漢字と計算について振り返る機会とした。児童のほとんどは、この「たしかめテスト」を大切な行事としてとらえ、繰り返し学習に日々取り組み、力を伸ばしている。(図3)

図4は、現在の6年生の得点の変化である。児童の意欲と取り組みの継続が、高得点を生んでいるようで

平成21年度 日課表

時刻	月	火	水	木	金
8:20	計算タイム	①お話し朝会 ②児童朝会 ③音楽朝会 ④学年学級 (随時表彰朝会)	さわやか タイム	計算タイム	ほんいっばい タイム
8:35					
8:45		朝の会		朝の会	
9:30		漢字タイム 国語	第1校時	漢字タイム 国語	
9:35			第2校時		
10:20					
10:40		業間		はつらつ	業間
11:25			第3校時		
11:35					
12:20			第4校時		
13:05				給食	
	清掃	掃除時間		清掃	

図1 日課表



図2 漢字練習

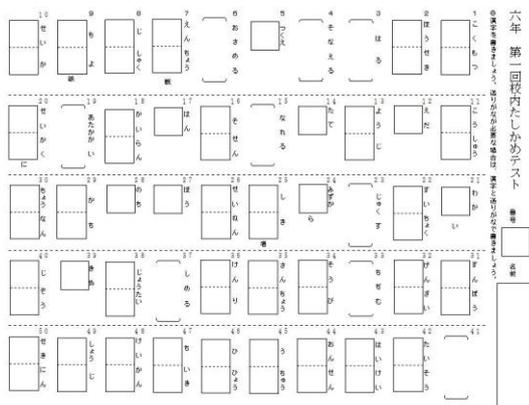


図3 たしかめテスト

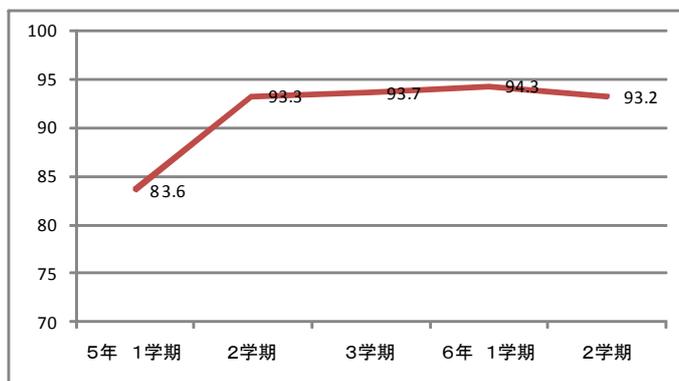
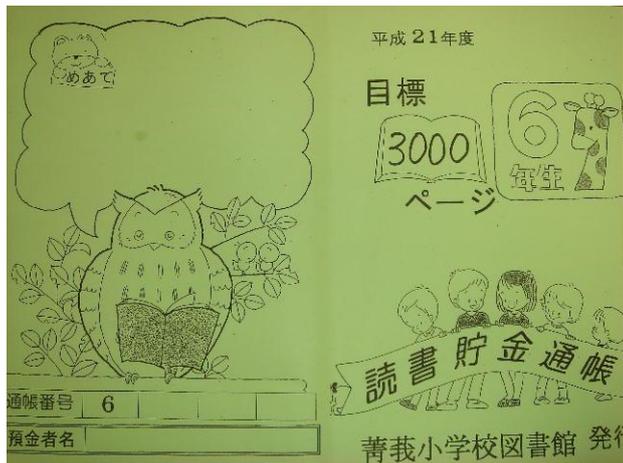


図4 平成21年度6年生のたしかめテストの結果の推移

②ほんいっぱいタイム

- ・「読書貯金通帳」による動機付け

毎週金曜日の業前に「ほんいっぱいタイム」を設定している。本を読み終わった後に、低学年は「読書の木」に色をぬり、中・高学年は「読書貯金通帳」に読んだ本のタイトルやページ数などを記録している。さらに中・高学年では、目標ページ数（半年で中学年2000ページ、高学年3000ページ）に達した児童には「あおぎり賞」を与え、読書の励みにしている。



読んだ日	書名	作者名	本のページ数	合計ページ数
10/30	魔女の3花屋さん	芝田勝茂	45	6694
11/6	ナイトメアー・ビガタ クリスマス	高宮枝	182	6876
11/6	72-Xの音響隊		14	6890
11/13	はれびとまふた		178	6968
11/13	ふたりのサングラス		40	7008
11/13	あむすびころりん		30	7038
11/15	こまはちんと 女と男	水村江	80	7118
11/15	ミモロジエ	水村江	220	7338



- ・「学校応援団」による読み聞かせ

月に二回、ほんいっぱいタイムの時間に学校応援団の方が来校し、読み聞かせを行っている。また、月に一回、ふれあいタイム（火曜昼休み）の時間にも低学年を対象におはなし会を開いている。どちらも子どもたちに好評で、物語の世界に浸りながら集中して聞いている。

- ・小グループでの感想交流

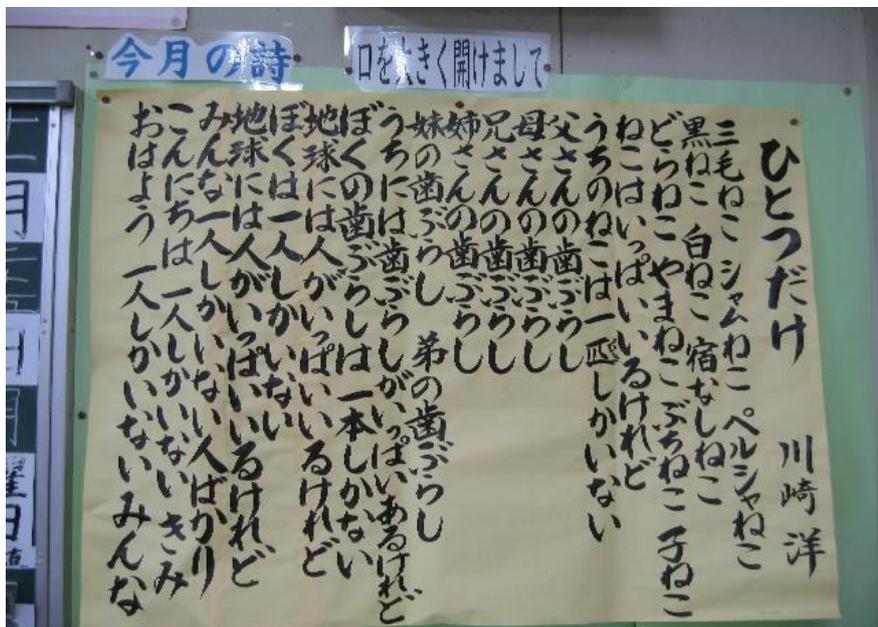
「クラス全体に自分の意見を発表することは苦手だが、少人数では安心して発表できる」という児童の実態をふまえ、ほんいっぱいタイムでも全員で同じ本を読み、小グループでの感想交流を取り入れている。



③音読指導

- ・暗唱や群読

授業の中で、音読の機会をたくさん設け、表現力の育成に努めた。また、朝の会や帰りの会の短い時間を使って、有名な詩や国語の教材の暗唱に取り組んだ。言葉遊びや名文を、声に出して読むことで、表現する力を育てるとともに、毎日声を出す習慣付けを行った。



- ・音読発表会

今年度から新たに、日頃の授業等で取り組んでいる音読の成果を発表する場として、音読発表会を11月に行った。各学年の発表時間は5分程度ということで、各学年とも事前に指導、練習を行い発表をした。当日の発表会は、学校公開期間ということもあり、多くの保護者にも参観していただくことができた。子どもたちは、緊張しながらも自分たちが覚えた詩や物語を、大きな声で暗唱し、しっかりとした態度で発表をすることができた。発表後の子どもたちの感想文からは、「1年生がとても大きな声で発表していた」「リズムがあってよかった」「いろいろな詩や物語が聞けて楽しかった」という他学年のよさを認める感想のほか、「みんなと一緒に大きな声が出せた」といったような、群読の楽しさにふれる内容の感想も見られた。

成果としては、発表に取り組むことで、しっかりと声に出して読むという学習の意欲付けになったほか、大勢の前で声を出すことで、自分の自信へとつながっていると考えられる。職員へのアンケートでも教育効果が見られ、「来年度以降も続けていく」という反省が出された。今後、発表の機会をより一層活用していけるようにしていきたい。

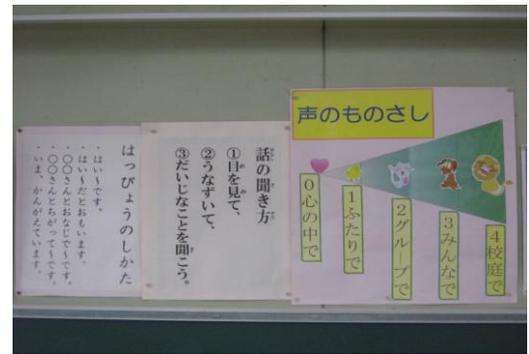
○各学年の発表	
五年生「おみやげ」	星 真一
二年生「いるか」	
「月火水木金土日の歌」	谷川俊太郎
一年生「大きなかぶ」	
A・トルストイ	
三年生「おまつり」	北原白秋
四年生「こんなじゃんけん」	しつてる
	川崎 洋
「朝がくると」	光富郁也
六年生「枕草子」	清少納言
「平家物語」	



④ 掲示物の工夫

- ・ 黒板前面の掲示

「声のものさし」や「発表の仕方」を教室の前面に掲示し、各学級で一貫した指導を行っている。特に、発表の仕方については、国語の時間を中心に指導し、身につけた話し方を他の時間にも活用できるようにしている。



- ・ 学習の流れ

教室内に学習の流れを掲示し、学習内容の確かな理解と定着を図っている。また、単元の学習計画を掲示することにより、児童の課題意識を高め、主体的に学べるようにしている。



- ・ 体験作文

行事が終わる毎に体験作文を書くことにより、活動の振り返りをするとともに、書く力を育てている。それを朝のスピーチ等で利用し、話す力・伝え合う力を育てている。

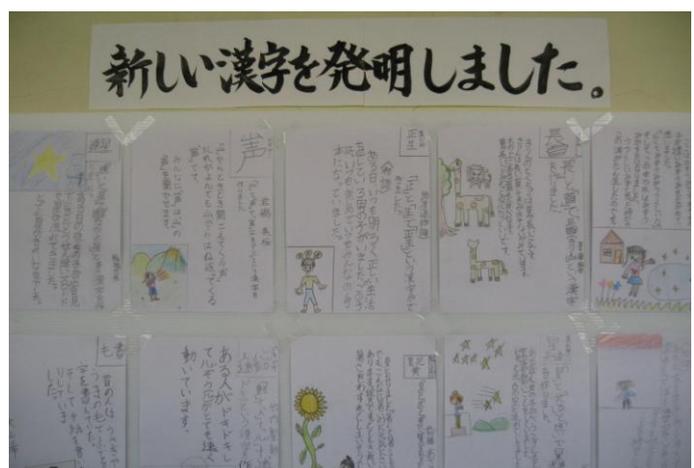
- ・ ことわざ

階段には、児童の興味をひく「ことわざ」を掲示し、言葉に関心をもたせている。



- ・ 国語の広場

廊下の壁に「国語の広場」を設け、「詩」を掲示したり「本」の紹介をしたりして国語に親しみをもたせる工夫をしている。



⑤ 家庭との連携

学校だより7月号で「家庭学習の定着に向けて」という記事を載せ、家庭学習の具体例を示して、家庭の協力を呼びかけた。11月号では、全国学力学習調査の結果も踏まえ、くり返し学習することの大切さにふれ、再度学習習慣について家庭への啓発を行った。